

楽しみながらデジタル社会を学ぶ —メルカリの消費者教育—

株式会社メルカリ 政策企画 齋藤良和

いま、事業者や事業者団体で、本業の事業分野をベースとしながらも広く消費者教育に関わる教材作成や出前講座等における積極的な取組が見られるようになってきています。これら教材等は、消費者教育ポータルサイトにも数多く登録され、教育現場からも高く評価されています。その中から今回は、株式会社メルカリの取組について、政策企画ご担当の齋藤良和氏にお話を伺いました。

1 消費者教育に取り組む背景

メルカリグループは、CtoCマーケットプレイスであるフリマアプリ「メルカリ」、キャッシュレス決済をはじめとした金融事業「メルペイ」などのサービスを通じて「あらゆる価値を循環させ、あらゆる人の可能性を広げる」ことを目指しています。（注釈：CtoC…Consumer to Consumer。消費者間取引）

近年、フリマアプリをはじめとするCtoCサービスが広く普及していることに加え、スキルシェアなどの新たなCtoCサービスも登場していることから、従来のように消費者が一方向的に商品やサービスを消費するだけでなく、誰もが提供者側にもなり得る社会へと変化しています。

そのためメルカリでは、従来の「購入・サービス利用者」に加えて「出品・サービス提供者」の保護や啓発がさらに必要になると考え、トラブルの未然防止や早期解決につなげるための活動として、2018年より中学・高校生を主な対象としたフリマアプリを安心して安全に利用するための教育啓発の取組を開始しました。

さらにその後も、成年年齢の引き下げや高等学校での金融教育の拡充に伴う「金融教育（キャッシュレス決済の安全利用）」や、あらゆるモノが循環する社会を実現するために「SDGs」「リユース」をテーマにした教育にも取り組んできました。

2022年には、これらの取り組みの実践事例や教材が蓄積されてきたことなどから、教育ポータルサイト「[mercari education](https://mercari.education)」を開設しました。

メルカリの教育ポータルサイト「mercari education」

mercari education
メルカリの教育ポータルサイト

私たちの取り組み

教材ダウンロード

活用事例

お知らせ



「mercari education」では、メルカリグループの提供するサービスや事業領域をもとに3つのテーマをとりあげ、6種類の教材を公開しています。

教材はどなたでも簡単なアンケートのみで無料でダウンロードすることが可能で、スライドやワークシートそして動画教材などを学校の授業やご家庭での学習にお使いいただけます。

- ・モノとお金の大切さを学ぶ
- ・インターネットサービスの安心・安全な使い方
- ・社会課題と企業の取り組みを学ぶ

3テーマ6種類の教育プログラム

循環型社会を楽しく学べる3テーマ6種類の教育プログラム

モノとお金の大切さを学ぶ

- フリマアプリとリユースについて学ぼう(対象:小学生)
- モノとお金の価値を学ぶワークショップ教材「メルカリかんさつ帳」(対象:小学生)

インターネットサービスの安心・安全な使い方

- フリマアプリを安心安全に利用するために(対象:中・高校生)
- メルペイと考える安心安全なキャッシュレス社会(対象:中・高校生)
- キャッシュフローから考える消費者信用と家計管理(対象:高校生・大学生)

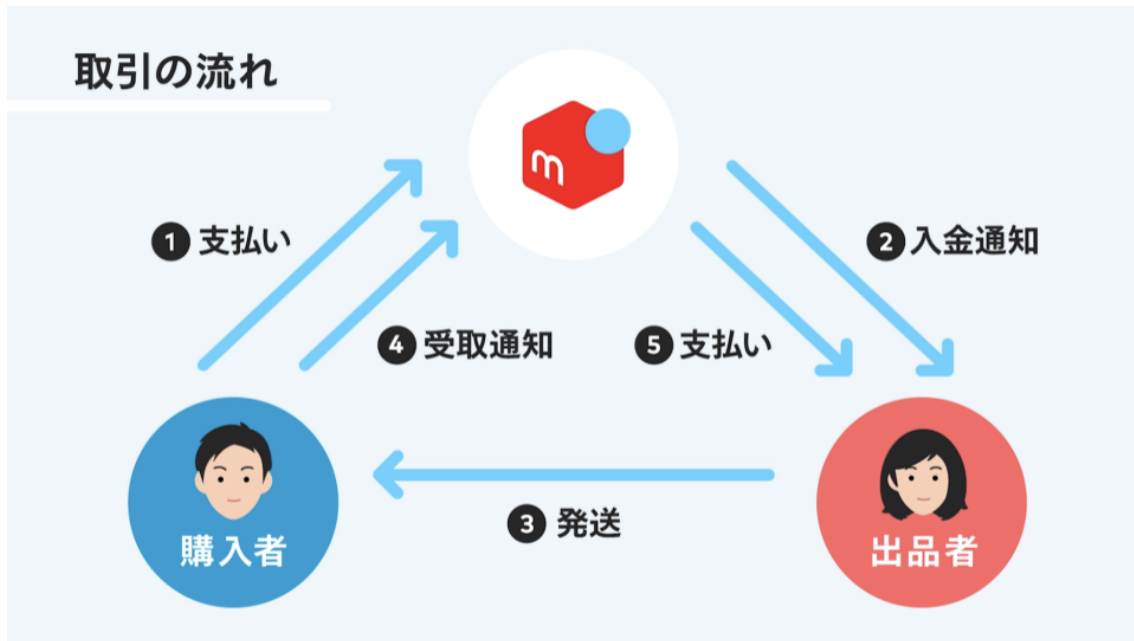
社会課題と企業の取り組みについて学ぶ

- フリマアプリでSDGsを学ぶ(対象:高校生)

mercari education



(教材例) フリマアプリの仕組みや特徴を解説した動画教材



(教材例) フリマアプリの取引における注意点を解説するスライド

mercari education

届いた商品を確認する前に、受取評価をしていた



2 キャッシュレス決済に関する授業実践事例のご紹介

2022年度からは、これらの教材を多くの教育機関やご家庭でお使いいただけるように、教育関係者を対象とした研修会への参加や、学校と連携した授業の実践に取り組んでいます。

そのなかで、具体的な実践事例として、「メルペイと考える安心安全なキャッシュレス社会」を題材に、金融教育・キャリア教育を関連づけた授業事例をご紹介します。

茨城県神栖市立神栖第一中学校は、金融・金銭教育研究校として学年ごとに様々な取り組みを実施しています。

今回メルカリでは、年間を通じた「総合的学習の時間」の活動として、キャッシュレス決済の安全な利用をテーマとしながら、調べ物学習や学校近隣の店舗でのフィールドワークを行い、最終的にスライドにまとめて発表をするまでの授業をサポートしました。

金融教育は高校の家庭科の授業などで行われる機会が多いと思いますが、成年年齢が18歳に引き下げられたことや、生活のなかにキャッシュレス決済などが急速に普及していることなどから、教育関係者や保護者の方から「早い時期から段階的にお金について学ぶ機会を持ちたい」という声が寄せられています。

今回の取り組みは、投資や資産形成などに触れる前の段階として、生活の身近にある見えないお金「キャッシュレス決済」をテーマとしながら、将来の働き方や職業について考えるキャリア教育とを関連づけたものです。

メルカリではこれまでも単発の出前授業は数多く行っていましたが、その後の意識・行動変容への影響を確認することが難しく、また学校としても生徒が学習した内容を反復して考える機会を確保しにくいということが課題としてありました。

今回の取り組みでは、以下のとおり、(1)の授業に加えて、年間を通じて(2)(3)を行うことで、生徒自身が学んだことを活用しながら、深い学びにつなげる機会を得ることができました。

(1) キャッシュレス決済の安全利用をテーマに「お金」について考える授業を実施

- ・ 中学2年生の「総合的学習の時間」において、教材「メルペイと考える安心安全なキャッシュレス社会」をもとにメルカリが連続2コマの授業を担当
- ・ スマートフォン決済アプリを題材に「前払い・即時払い・後払いの特徴」や「セキュリティを守る方法」を学ぶ
- ・ 3つのストーリーの問題点を考えるワークショップを通じてキャッシュレス決済利用時の注意点を理解する

(2) 学校の近隣の店舗への訪問しインタビューを行う（フィールドワーク）

- ・先生が地元企業・店舗との調整し、グループごとに担当企業の割り振りを行う
- ・生徒が企業・店舗を訪問し、(1)の授業で学んだことを参考にしながら、キャッシュレス決済の利用状況や課題、メリット・デメリットを調査する
- ・企業・店舗の方へのインタビューを通じて仕事の内容や働きがいについて理解を深める

(3) スライドなどを用いて発表を行う

- ・調査した内容をGIGAスクール端末を用いてスライドなどにまとめる
- ・キャッシュレス決済の利用時に自分なりの使い方や注意点などをふくめて発表の準備をする
- ・グループごとに調べてきたキャッシュレス決済の利用状況やメリット・デメリットについて全体発表を行う

キャッシュレス決済の安全利用についての授業の様子（講師はメルカリ社員）

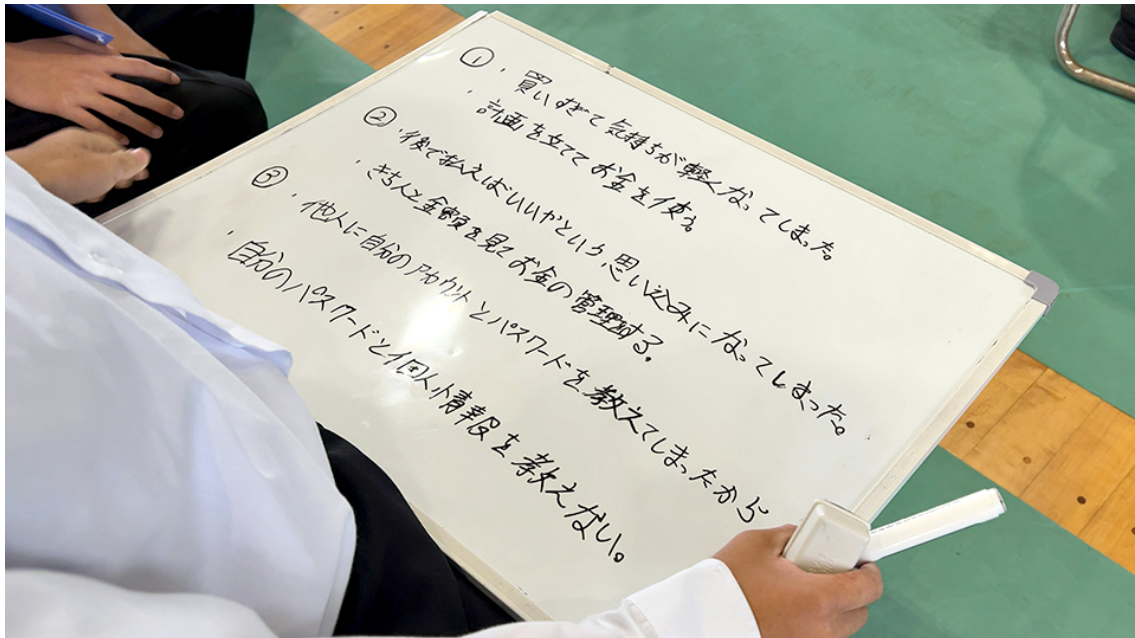


授業で用いたスライド

1. キャッシュレス決済の便利なところ(利用者の視点)



ワークショップでは、グループごとに意見をホワイトボードにまとめました



(1)の授業後のアンケートではキャッシュレス決済を利用する際に気をつけたいこととして以下の意見があげられました。

- ・ 使う金額や持っている金額などをちゃんと比較し、自己管理を怠らない。
- ・ 後払いをする際は何かを買ったかいくら使ったかを定期的に確認し、責任を持って確実に覚えておく。
- ・ 残高確認、履歴確認、セキュリティを確認する (どのような設定になっているか)
- ・ 利用履歴や残高などの確認をして、しっかりとお金の管理をする。
- ・ パスワードを人に教えないなどセキュリティ保護を行う。
- ・ 親と危険な使い方などについて話し合いながら利用する。

(2)のフィールドワークで生徒たちは、学校の近くにあるコンビニエンスストア、書店、寝具店、ドラッグストア、飲食店などの様々なお店の方に仕事の内容ややりがい、そしてキャッシュレス決済の利用状況などをインタビューしたそうです。

それらのヒアリング内容をスライドにまとめて行われた(3)の発表会では、「お店を利用する方の年代などによってキャッシュレス決済の利用状況が異なっていた」ということや「キャッシュレス決済ではお金の支払がスピーディーにできる」といった内容がグループごとに発表されました。

また、お店の方とのコミュニケーションを通じて「仕事の大変さやお店の人が接客の際に大事にしていることがわかった」という声も聞かれました。

コンビニエンスストアを訪問したグループの発表



書店を訪問したグループの発表



3 まとめ

今回のキャリア教育と金融教育とを関連づけた授業のように、金融教育はそれ単体ではなく様々な領域と連結できる可能性があります。今後の授業づくりの参考にさせていただきますと幸いです。

メルカリでは、今回ご紹介した授業以外にも様々な取り組みを行い、実践事例としてレポート記事を公開しています。また、教材についても、小学生のお子さんのいらっしゃるご家庭を対象としたものや、循環型社会を実現するためにメルカリが取り組む社会課題を題材にしたものも公開しています。

実践事例や教材は今後もアップデートしていきますので、ぜひ「mercari education」をご確認ください。